



どうにかする力

泗水小学校だより
R4. 8. 31(水)
No. 19
校長 工藤竜一

【校訓】 なかよく つよく しんけんに
【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成
～「生きる力=どうにかする力」を育む教育活動を通して～

毎日お弁当の準備ありがとうございます！

今週から本格的に授業を開始しました。お忙しい中、毎日、弁当を持たせていただき、ありがとうございます。大変ご迷惑をおかけしてはいますが、子どもたちはお弁当の時間をとても楽しみにしているようです。9月30日（金）まで続きますが、ご協力をよろしくお願い致します。



1年生の昼食の様子

「元気なお口の教室」が行われました！

今週、熊本県歯科衛生士会菊池郡市支部のご協力により、「元気なお口の教室」と題して、歯のブラッシング教室を実施していただいています。まず、歯の働きやむし歯ができる仕組みの説明をされました。歯は、「物を食べる」「しゃべる」「表情を作る」「バランスをとる」「ちからを出す」の5つの働きがあることや、口の中のミュータンス菌の働きによってむし歯ができることなどを説明されました。私たちが生きていく上で大切な歯をむし歯から守るために、歯みがきが大切であることを学びました。



最後に歯の正しい磨き方を練習しました。新型コロナウイルス感染予防のため、学校で歯みがきはできない状況ですが、今回学んだことを家庭での歯みがきに生かしてほしいと思います。

☆校長室から独り言16☆

「子どもは未来からの留学生！」②

今年度4月に、6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の国語の問題には、次のような問題がありました。

- 「あなたが〇〇さんなら、どのように話しますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。」
 - 「あなたが〇〇さんなら、**A**に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。」
- 最近の高校入試、大学入試でも、「あなたは どう思いますか？それはなぜですか？」と問うパターンの問題がとて多くなりました。小論文や面接を除いては、私たちが受けてきた一問一答式の入試からは考えられなかった問題です。問題がなぜこのように変わったのでしょうか。

現代は価値が多様化しており、社会問題を解決しようとしても正解を導くことが難しい時代といえるからです。子どもたちは、正解を導くことが難しい、予測不能な未来へ羽ばたかなければなりません。正解がはっきりしない社会を生き抜くためには、「自分は どう思うか」という「自分軸」での思考ができ、その根拠とともに他者に説明できる表現力が求められます。

聖ドミニコ学園カリキュラムマネージャーの石川一郎氏は、「未来を生きる上で大切な3つのポイント」を右のように挙げています。

今までの教育は知識の「習得」に重きが置かれてきましたが、これからは、得た知識で自分は どう考えるのかという知識の「活用」が重要になってきます。知識を活用させるために、右のポイント②の、異なる考えとの出会いが必要です。自分とは違う多様な考え方に触れたときに、「なぜ違うのか」「自分はなぜこう考えたのか」と思考を深めていくからです。

こうした多様性との出会いや思考を深める手法として、AL（アクティブラーニング）型授業が盛んに行われるようになりました。教師主導の講義型一辺倒の授業から、他者と意見を交わし、根拠を述べる授業の実践を泗水小でも推進しているところです。

未来を生きる上で大切な3つのポイント

- 1 今の世の中を知っている**
未来は現在の延長であるため、未来をイメージしてこれからの社会に向き合うためには、今がどんな世の中で、何が起きているかの知識が必要。今まで通りの知識の習得は継続して重要。
- 2 自分と違う考えに出会う**
自分一人の知識や考えには限界がある。見識をひろげ、複眼的な視点をもつためにも、多様な人のもの見方や考え方に触れる必要がある。AL型授業はその意味でも有効。
- 3 自分を知る**
正解のない問いに対して、自分軸で自分なりの答えを導くために、①と②を踏まえたうえで、「自分は 何者なのか」「自分は 何がしたいのか」と、自分をつきつめていくことが求められる。